

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成31年4月12日から令和元年7月3日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18041、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年 5月現在）

事業所名： (施設名) 飯綱町立 南部保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 町長 峯村 勝盛 園長 矢野 泉	定員（利用人数）： 90名（79名）
設置主体： 飯綱町	開設（指定）年月日： 昭和59年4月1日
経営主体： 飯綱町	
所在地：〒389-1212 長野県上水内郡飯綱町大字豊野1550-1	
電話番号： 026-253-7153	FAX番号： 026-253-1505
ホームページアドレス： http://www.town.iizuna.nagano.jp/kosodate/hoikuen/samizukko/	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員： 8名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・子育て支援員 1名
	・保育主任 1名 ・園バス運転手 1名
	・保育士 15名 ・園バス添乗員 1名
	・保育協力員 2名 ・給食調理員 3名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 2室 ・保育室 … 5室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 3室 ・交流室 … 2室	
・4人乗りブランコ ・ジャングルジム ・雲梯 ・3連鉄棒 ・コンビネーション遊具 ・園庭用テーブル	

3 理念・基本方針

○飯綱町保育理念

子ども達が現在(いま)を幸せに生活し、未来(明日)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人一人の子どもを心から尊重し、子ども、保護者、地域に最善をつくします。

○飯綱町保育方針

- ①一人ひとりを大切にし、すべての子どもの発達を保障していきます。
- ②家庭としっかり手をつなぎ、共に協力し合って、子どもを育てていきます。
- ③一人ひとりの子どもを職員集団で見守り、発達を確かめ合っていきます。
- ④子どもの年齢や発達の状況に合わせて保育目標を持ち、計画を立て、見通しのある保育を行なっていきます。
- ⑤障害児保育を進めるにあたり研修し、保育内容の向上に努力します。
- ⑥地域と深くつながった保育園であることを目指し、未就園児体験入園等を積極的に取り組みます。

○飯綱町立3保育園保育目標

- ①生き生きと遊ぶ子ども
- ②思いやりのあるやさしい子ども
- ③感性豊かに育つ子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当南部保育園は飯綱町が運営する3保育園のうちの一つで、昭和59年4月に、それまで旧東小学校平出分校跡地で運営してきた旧南部保育園が福井団地内の中央エリアに移転し新築された。

福井団地は、長野県企業局により昭和52年10月に造成工事が開始され、また、昭和55年に分譲が始まり、翌56年(1981年)7月に団地が誕生した。現在では、800軒(平成30年2月末)までに戸数が増え、長野市北部市街地からも30分以内の通勤圏内にあり、利便性の良い地でもあることから、近年では移住する若い家族もおり、長野市のベットタウンとして再び注目されている。団地からは北信五岳が見渡せ、自然豊かで静かな環境にも恵まれ、北は北海道から南は沖縄まで、この地に根をおろした人々が第二の故郷として暮らしている。

当保育園の運営主体の飯綱町は平成17年10月1日、牟礼村と三水村の合併により町制が施行された。町は県の北部に位置し、人口約11,300人(平成30年2月末)、標高約500メートルにあり、農業では全国のリんごの総生産の1パーセントを担う一大産地として、品質もトップクラスで、また、特Aランクに評価されている米も町が誇る生產品の一つとなっている。また、町内の飯綱東高原にはスキー場、湖、温泉施設、ゴルフ場といったレジャー施設もある。

当保育園のある福井団地は北信五岳の飯綱山から鳥居川にかけてのなだらかな丘陵地帯にあり、当保育園や隣接する体育館兼コミュニティーセンター、郵便局などが団地中央部分に位置している。当保育園の新築移転については当時の牟礼村保育園運営委員会に昭和56年11月の「福井団地児童保育のあり方」が諮問されたことから始まり、国補助金、県補助金、地方債等の財源により、新保育園の起工、竣工へと計画が推進された。この間、旧南部保育園に通う福井団地の子ども達もいたという。

当園では町内の他の二つの保育園とともに、長野県が進めている「信州やまほいく認定制度(信州自然型保育認定制度)」の認定園として「豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの”人生の根っこ”を育みます」という活動を推進しており、送迎時に使う広い駐車場の上段に、桜の木のある園庭と230坪近くの緑色の屋根の平屋の園舎が目に入ってくる。南西にはなだらかな飯綱山と急峻な戸隠山の山容と裾野に広がる森林や「丹霞郷」と呼ばれる桃畑、リンゴ畑等を眺めることができ、園庭の桜の大木などの木陰で遊ぶこともでき、大型遊具の他、砂場、テーブルなども置かれ、様々な遊びができるようになっている。また、園庭の一角や園舎の周りには花や野菜が植えられ、動植物に親しんだり、様々な自然から学び足腰を鍛え、地域の人々とも散歩時の挨拶等で関わりを持っている。更に、「わくわくスポーツタイム(楽しく脳と身体を鍛える脳活運動)」や「英語遊び」などの経験を通して、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探求心も培っている。

現在、当園には1歳児7名のひよこ組、2歳児9名のあひる組、3歳児19名のうさぎ組、4歳児19名のぱんだ組、5歳児26名のきりん組の5つのクラスがあり、更に、10月からは0歳児3名の入園も予定され、それぞれの発達段階に合わせて作成された、町立3保育園共通の2019年度「保育課程(全体の計画)」の3つの「保育目標」に沿い、「無限の可能性を秘めている子どもたちが、

日々を最も良く生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を養うこと」の実現に向けて全職員が懸命に取り組んでいる。

また、当園では他の二つの町立保育園と協働しながら保護者のニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、一時預かりや長時間保育、園開放(おひさま広場)、体験入園、障害児保育等を実施している。一時預かりについては保護者の断続的就労や心身の不調、家庭の用事等で、育児ができない状況になった場合、子どもを一時的に預かり保育を行うサービスで当保育園でも多い月は20名弱あり、月平均7名ほどの利用者がいる。長時間保育は保護者の仕事と子育ての両立を支援するため、保育短時間利用(最長8時間)に加えて、朝夕の保育時間の延長サービスを利用するもので当保育園でも月平均54名前後の方が利用している。園開放(おひさま広場)は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで5月から翌年2月にかけて月1回実施し、平均利用組数は4.8組となっている。体験入園は未就園児と保護者対象に園のクラス活動に参加し在園児や保育士との関わりを通して、異年齢児との交流・園生活を知ることができるサービスで利用する方がいる。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で、原則担当保育士が付き、園活動や他児との交流のサポートをしている。

当園も含めた町立3園では今年度、新たに、町の「保育理念」や「保育方針」に沿い「飯綱町立保育園ランドデザイン」を作成し、「保育目標」・「保育内容」・「年間目標(年齢別)」・「保育を支える環境」の四つを明らかにし、共通の年間活動計画や合同の企画、職員の研修などを行い、町保育園全体として均質のサービスを提供しようと、家庭や地域の人々との連携、園内の環境づくり、職員の専門性の向上及び定着などに積極的に取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回は初めて
---------------	--------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点

1)自然との関わりながらの保育

当園は信州自然型保育(信州やまほいく)の普及型認定園になっており、自然とのかかわりの中で生物や植物などの大切さや命の尊さを学び、自分で興味・関心を持ち、自分で考え、自立心が育つように支援している。

すぐ隣には地区のコミュニティセンターがあり桜の木に囲まれたグラウンドも広く子どもたちも安全に遊ぶことができ、様々な遊びができる環境が整っている。また、園庭にも大きな桜の木が数本あり、四季折々の姿を見ながら季節を感じることができる。園庭の一角や園舎の周りには野菜(サツマイモ、ジャガイモ、タマネギ、キュウリ、ナス、トマト、ピーマン、ズッキーニ、カボチャ、枝豆、トウモロコシ、イチゴなど)が植えられ、収穫数を数えたり、給食に使うなど、育てながら自然と触れ合い食の体験もしている。野菜の栽培を通じて協力や異年齢児との交流も深まっている。年中・年長児は地域の老人会の方々と一緒にさつま芋の苗植えをし、収穫も一緒に行っており、老人会の方々も交えて全園児で焼き芋大会も行っている。

コンビネーション遊具、ブランコ、雲梯、鉄棒、園庭用テーブルのほか砂場・備え付けのプールもある。野外遊び、散歩を多く取り入れており、異年齢で地域の名所である桃畑やリンゴ畑を巡り、動植物などの身近な自然との触れ合いを大切に、保育に取り入れている。また、園内でザリガニやドジョウ、カブトムシの幼虫やカマキリ、ダンゴムシなども飼育することもある。

平成30年4月施行の新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でも「思考力の芽生え」として示されているように、当保育園では、子どもたちが周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、新たな発見をしたり、もっと面白くなる方法を考えたりして自分の考えをより良いものしていこうとする前向きな姿勢を育もうとしている。

2)地域の人々との交流

町立3保育園共通の保育指針の6番目に「地域と深くつながった保育園であることを目指し、

未就園児体験入園等を積極的に取り組みます」と掲げ、未就園児体験入園に取り組んだり、地域性を活かし身近な人や自然・物と関わり、感性豊かな子どもに育つように、地域の人々と積極的な連携を図り、地域社会での生活体験の場を作っている。

当保育園は昭和 50 年代に分譲地として開発された福井団地の一角に開園した保育園であり、周りは住宅が多く、隣にはコミュニティーセンターと広場もあり静かな環境に恵まれている。そうした中、当団地では住民の高齢化と核家族が進んでいる。当園では七夕飾りづくり、さつま芋の苗植え・収穫、焼き芋大会など、老人会との交流の機会が多く、また、町内の「だんごりの会」の方々も伝統食（おやき、箱膳）を園児と一緒に作ったり楽しみ地域の文化を伝えている。

学生、おはなしの会、マジック、草笛などのボランティアの受け入れも行っており、団地の文化祭への作品展示、団地の運動会への参加、消防団出初式参加（年長）など、地域の方々との触れ合いや交流の場も多い。

年長組が近くの老人福祉施設を訪問し高齢者に踊りや歌を披露し、3 保育園の年長組合同で地域の商店街の見学を行い、園での「お店やさんごっこ」にもその体験を活かしている。災害時にも隣接地のコミュニティーセンターとの連携がとれるようになっている。地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等については町の教育委員会や子育て支援センターで実施しており保育園としても協力している。

当保育園では保育課程（全体的な計画）の領域「人間関係」に年齢ごとの保育内容を掲げ、保育園の生活において保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安心感や、保育士等との信頼関係を基盤に、クラスの子どもの関わりから保育所全体へ、更に地域の人々や出来事との関わりへと、次第に広がるように全職員で取り組んでいる。

3) 外部講師の協力を得ての保育

当保育園を含めた町立 3 保育園では特色ある保育として外部講師を招き、4・5 歳児については「わくわくスポーツタイム」を取り入れ、楽しみながら体を動かして遊ぶことにより「生きる力」を支える「健やかな体」・「豊かな心」を育むため、月 1 回、実施している。また、外国人講師による「英語で遊ぼう」も月 1 回、3 歳児からを対象に取り入れ、外国の文化と言語に触れ、グローバルな人間形成を目指している。

当保育園での「わくわくスポーツタイム」ではゲーム感覚で体を動かすことにより、力の入れ加減を学んだりバランス感覚を養ったりし、自分で自分の体を自由にコントロールできる力を身につけることで、事故やケガを防ぐことにもつながっている。当保育園の保育室・廊下の床は緩衝性に優れた材質で骨折等のリスクにも対応しているが、運動する中で、状況を判断したり予測をしたり、それに伴い、動きを変化させたりする必要性が生じ、脳のあらゆる機能を使うことで脳の発達にもつなげ、転倒などを未然に防ぐことにも大変、効果を発揮している。当園ではこの運動遊びを実施する前と実施した 1 年後の結果としてのレーダーチャート化されたグラフで「判断力」、「注意力」等の領域について確認し、一人ひとりの子どもの次の指導計画に活かしている。

子どもたちも体を動かす気持ちよさを感じ、そのことにより生活に必要な習慣や態度を身に付け、これらは日々の保育にも活かされ、年中や年長の子どもの達への保育士の指示がストレートに伝わっていることが訪問調査時に確認できた。

「英語で遊ぼう」は「気持ち」と「動き」を組み合わせ、言い方だけでなく特徴的な動作を身体表現として取り入れて遊ぶことでより楽しく英語に親しむことができるようにしており、歌やゲームで興味をもたせ、しっかりと身体を動かす活動を取り上げることでより効果的に取り組んでいる。

当保育園の子どもたちは、ふだんの家庭生活の中ではできない、こうした心を動かす出来事に触れ、みずみずしい感性を基に思いを巡らせ様々な表現を楽しむようになってきており、自分の気持ちをそのまま声や表情、身体の動きとして自分なりに表わし、子ども同士お互いにその喜びを味わっている。

4) 公立 3 保育園及び町担当部署との連携

町教育委員会の担当部署では町の各部署と連携をし、母子手帳交付時から保育の必要性を把握し、入園前からその家庭数の予測を行い、年度途中でも園児を受け入れ、待機児童がないように職員体制を予め整えている。また、一時保育の受け入れも可能で交流室なども完備され、職員も確保できている。

また、3園では連携し、情報の交換と共有を図り、共通の保育方針に基づいて保育課程(全体の計画)、年間指導計画、食育年間指導計画、保健計画を立案し、すべての子どもが利用している間、安定した生活を送り、充実した活動ができるよう、柔軟に対応している。園長会、保小連絡会等も定期的に開かれ、課題の解決に努めており、町の子育て支援センターと連携し、施設開放による交流事業として「おひさま広場(未就園児の園開放)」、「親子ふれあい教室」等を実施している。栄養士も3園共通で、各園の様子を把握しつつ地域の食材を活用し、郷土食もメニューに取り込み、小さい時から味覚を鍛え、除去食のある子ども達も同じ物が食べられるよう、手間を惜しまず工夫をしている。

更に、3園では町の教育委員会の担当部署などと連携しながら町内の子育て支援ネットワークに参画し、町の目指す「子どもたちの笑顔があふれ、歓声がこだまする町をめざして」公立3保育園合同で取り組んでおり、「健やかに生まれ、育成される環境づくり」や「子育てを支援する仕組みづくり」、「新時代に向けた人づくり」などに取り組んでいる。

◇改善する必要があると思う点

1)園舎内外の整備

園舎も開園から35年以上が経過し、管理上や機能面で改修を要する箇所が出始めているように思われる。職員の配意と工夫だけでは補えない部分もあり、所管部署との認識の共有と対応が必要な時期に差し掛かっているものと思われる。

具体的には、桜の木の成長により固定遊具が使用不可能になるなど安全面での不安が感じられること、園舎や昇降口への出入りがバリアフリーになっていない箇所もあり今後のニーズを踏まえると整備される必要があるのではないかと思われること、幼児用トイレのドアが低くプライバシー保護に差し障りがあるのではないかと思われる点などで、検討される機会があれば俎上に載せられることを期待したい。

保育の環境には子どもや保育士等の人的な環境、施設や遊具などの物的環境、更に、自然や社会の事象などがあるとされており、こうした人、物、場などが相互に関連し合い子どもたちの豊かな生活に繋がっていくものと思われる。

子どもの活動が更に豊かになるように設備面での環境を整え、特に、保健的環境や安全面での整備について、関係部署と相談しながら計画的に取り組まれていくことを期待したい。

2)保護者等への理念、基本方針の更なる周知

保護者アンケートの「保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)を知っていますか」という問について「いいえ」という方が4分の1ほどおり、今一つ浸透していないのではないかとと思われる。

今年度、子どもの発達過程に応じ、また、理念や基本方針と連動させた町立3保育園としての保育目標を3つに集約し、「飯綱町立保育園グランドデザイン」として明示し、保育目標等を玄関や保育室などに掲示し誰にでもわかるようにしている。

今後、この「グランドデザイン」を保護者等に配布し、「保育園のしおり」にも「保育理念」・「保育方針」を掲載し、保護者や地域社会に対して町立3保育園としての保育園の目的や存在意義、使命や役割等をより具体的かつ丁寧に説明されることを期待したい。

7 事業評価の結果(詳細)と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施(別添1)並びに内容評価項目の評価対象A(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和元年 6月24日記載）

初めて第三者評価を受けさせて頂きました。自然と関わりながらの保育、地域の人々との交流、公立3保育園及び町担当部署との連携等評価して頂いた一方で、改善点が明らかになりました。

園舎内外の整備では、開園から30年以上経過している園庭遊具、施設面でのバリアフリー化と、時代の変化とニーズに合わせた改善を早急に行う必要性があり、改修、修繕の予算化をおこなっていきます。

保育目標、保育方針について、今年度新たに作成したグランドデザインにより、保護者にわかりやすく伝えることで、保護者と保育士が同じ思いで、子ども達の未来のために生きる力が育つよう、職員一丸となり努力致します。

評価を受けて保育士は、「改めて保育を見直すきっかけとなった。」「行政や、園の仕組み、マニュアルの見直しができた。」「自分の保育を客観的に見て頂き改めて考える良い機会になった」と、自分のクラス運営だけでなく園全体、また、飯綱町保育園運営について考え直す機会を、与えて頂きました。

保護者アンケートでは、直接要望できない保護者の方の思いも受けることができ、保護者の気持ちに寄り添った保育園運営について職員間で協議し、保育の質の向上につなげていきたいと考えました。また、家庭と手を取りあい、共に協力し合って子ども達を育てていけるよう職員一同研鑽を積んで参ります。

最後に、コスモプランニング様には、丁寧な説明と助言・評価をいただきましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。